

中瀬信之 県政レポート

[中瀬信之事務所] 住所: 〒519-0416 三重県度会郡玉城町下田辺455 TEL・FAX 0596-58-2800



平素は「三重県議会議員 中瀬信之」の県政活動にご理解ご支援を賜り有り難うござります。

今年は、任期途中での知事の退職に伴い、コロナ禍の中でありましたが、9月に知事選挙が行われ新知事として一見勝之氏が当選をされ新たな県政のスタートとなりました。

二元代表制の元、私たち議員も三重県の発展のために精一杯働きます。

一見知事には、三重県発展の為にそして県民一人一人が幸せに暮らせる地域づくりを進め一杯働きます。

2020 東京オリンピック、女子レスリング競技 53kg 級で金メダルを獲得した向田真優選手（株）ジエイテクト所属）が、8月17日、知事に金メダルの報告並びに県民栄誉賞を受賞されました。私たちレスリング関係者にとっては名誉で有り嬉しいことでありました。昭和39年に三重県レスリング協会設立し、昭和44年に高校にレスリング部体の三重県開催の決定を受け、昭和48年の高校総体、昭和50年の国体が発足し高校生達がインターハイや国体を目指すこととなりました。

当時、三重国体と言う大きな目標に向け先人達が努力を重ねて来たことが、今の三重県レスリングの歴史を作り上げ、今回の東京オリンピックに向田真優・土性沙羅・高橋侑希選手

ていただきたいと思います。新型コロナウイルス感染症の猛威を振るった第5波も収束に向かいつつありますが、第6波の脅威は拭いきれない思いがあります。一日も早い平穏な生活が望れます。

令和3年5月11日県議会本会議で賛成多数で可決されました。

令和2年10月に提出された「選舉区及び定数に関する在り方調査会」の報告書等を踏まえ、内閣において案を作成し、これを基に議会全体で検討を進めていきました。

この結果、議員定数を現行の51人から48人と

する条例の一部改正案です。

議員定数3減案可決 51人→48人に

ます議員定数が減る一方となります。人口比率も重要な要件の一つですが定数増も視野に入れた様々な要素を考慮する必要性を感じました。

三重県議会議員の定数及び選挙区等

今も脈々と続く三重国体のレガシー

新型コロナ感染症対策を怠らず皆様が日々健康に暮らせる

ことを願っています。

内容は、2023年の県議選挙で示され、パブリックコメントを実施した後、全員協議会に諮り今回の決議に至りました。

意見聴取を行い、代表者会議に

南北格差についての考え方等

くことが決定され、各会派から意見聴取を行い、代表者会議に示され、パブリックコメントを実施した後、全員協議会に諮り今回の決議に至りました。

内容は、2023年の県議選挙から2人減らすことと定められました。

南北格差についての考え方等

くことが決定され、各会派から意見聴取を行い、代表者会議に示され、パブリックコメントを実施した後、全員協議会に諮り今回の決議に至りました。

内容は、2023年の県議選挙から2人減らすことと定められました。

南北格差についての考え方等

くことが決定され、各会派から意見聴取を行い、代表者会議に示され、パブリックコメントを実施した後、全員協議会に諮り今回の決議に至りました。

内容は、2023年の県議選挙から2人減らすことと定められました。



【左から】中瀬・宇野勝彦四日市ジュニアレスリングクラブ監督・向田真優選手
土方明郎三重県レスリング協会理事長・浦田安三重県レスリング協会副理事長 県議会議事堂にて



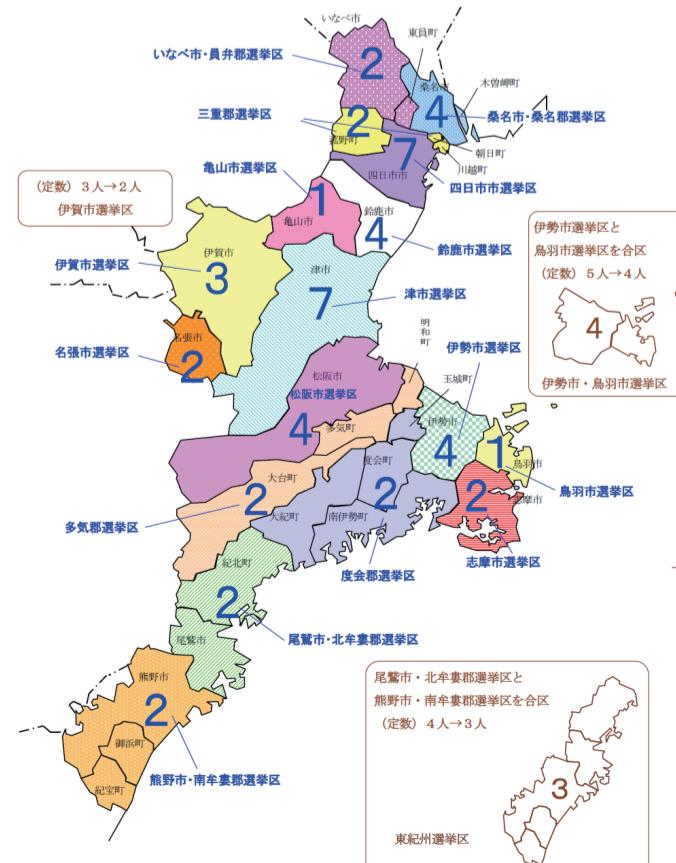
住み良いまち住みたくなるまちに 中瀬信之 プロフィール

昭和30年 4月6日玉城町に生まれる
昭和49年 松阪工業高等学校卒業
昭和53年 法政大学経営学部卒業
平成19年 JA全農グループ三重農協食品株式会社退職
平成19年 玉城町議会議員初当選から3期 議長
平成31年 三重県議会議員初当選
総務地域連携常任委員会委員
予算決算常任委員会委員
三重県都市計画審議会委員
(元)玉城中学校PTA会長

令和2年 防災国土整備企業常任委員会委員
予算決算常任委員会委員
三重県産材利用促進に関する条例検討会委員
広聴広報会議委員
令和3年 環境生活農林水産常任委員会副委員長
予算決算常任委員会委員
広聴広報会議委員
三重県都市計画審議会委員

三重県議会議員 中瀬信之事務所
〒519-0416 三重県度会郡玉城町下田辺455
TEL・FAX 0596-58-2800

中瀬 信之→
オフィシャル
ウェブサイト



- (1) 改正前
定数51人、17選挙区
(2) 改正後
定数48人(3人減)
15選挙区
(次の一般選挙から適用)
※改正後の改正選挙区と
定数 □ で表示

三重県の南北地域格差について

質問

三重県南部地域は県北部地域と異なり人口減少や少子化が著しく多くの問題を抱えている。南部地域の発展に

は、農林水産業の新しい発展や観光産業などの発展と合わせた普及がもとめられているが知事の考えを伺う。

危機管理体制の強化策について

質問

南部地域には、多くの魅力あふれる農林水産物や、伊勢神宮、熊野古道といった人々を魅了する歴史や文化など多くの素晴らしい観光コンテンツがあります。こうした南部地域ならではの魅力を高めながら、雇用を生み出す好循環をつくることで地域の活性化へとつなげていきたいと考えています。

災害対策本部を速やかに立ち上げ、対応を行うための常設の危機管理センター（防災セン

は、多額の費用を要することや場所の確保も必要になるため、中長期的な視点で検討していくものと考える。

常設の災害対応施設の必要性については痛感しているが、まずは現在の体制において、迅速かつ的確な災害対応ができるよう、しっかりと取り組んでいく。

常設の防災センターは、初動対応の迅速性をより一層高めることが期待できるものと考えている。しかし、施設整備に

一見知事答弁

災害対策本部を速やかに立ち上げ、対応を行うための常設の危機管理センター（防災セン

は、多額の費用を要することや場所の確保も必要になるため、中長期的な視点で検討していくものと考える。

常設の災害対応施設の必要性については痛感しているが、まずは現在の体制において、迅速かつ的確な災害対応ができるよう、しっかりと取り組んでいく。

辻局長答弁

国体・障がい者大会が中止という大きな決断を下したが、この10年間積み重ねた、選手強化や

施設の整備や大会運営のノウハウなど多くの知恵がある。今後の三重県スポーツの振興に向けた考えを伺う。

本県では、約10年間にわたる両大会の開催準備の中で、スポーツの分野において、ハード・ソフト両面でさまざまな財産が生まれていく。

出され培われた。今後の取組みとして、市町、競技団体と一緒にやって本県の地域スポーツの推進やスポーツを通じた地域づくりに取り組みたい。

県政に対する一般質問



一見知事答弁

近畿自動車道紀勢線の延伸による物流の効率化というチャンスも生かして、農林水産業と観光産業の振興だけではなく、総合的にかつ大胆に県のあらゆる分野の施策を総動員して、南部地域活性化に向けた取り組みを強力に進めます。

水野部長答弁

三重県では、この分野で遅れを取っているのが現状であり、4月に施行された「三重

県産木材の公共土木事業での拡大について

質問

促進について意識が高まる要因になると考える。公共土木工事に計画的な県産木材の利用拡大について伺う。

の木づかい条例」を起爆剤として、積極的かつ計画的な利用を推進する。より実効性のある取組みとするために、今後5年間における利用計画を策定し、県産木材の使用を原則とする土木工事の種類を定め、工事発注の条件とします。また、5年で終わることなく、継続的に、さらなる進化をとげていくことが重要です。この5年間で他県に追いつき、追い越す意気込みで、そして、次の5年間で、トップランナーになることをを目指し県産木材の利用を推進します。

三重の木づかい条例（議員提出条例）可決

令和3年4月1日施行（条例制定の委員（11名）として参加していました）



議事堂にて（三重の木づかい条例説明会）

回から令和3年2月26日の第20回の間多くの議論を踏まえようやく可決・成立了。条例では、県産材の利用を最も優先することを掲げ、木材利用の推進に関する基本理念や責務、県の取組みなどについて定めています。ウッドショックと言われる中、今後益々の県産材の利用促進を加速させていきます。



伊勢茶の魅力の発信と販売拡大を願いおいしい伊勢茶の淹れ方教室開催（3/5）

伊勢茶の進行に寄与するため、三重県議会議事堂エントランスホールにおいて、三重県議会と三重県茶業会議所と共に、「お茶の淹れ方教室」を開催しました。飯南高校の美術部の生徒によるお茶ラテのラテアートの実演を通じて新たな伊勢茶の楽しみ方をしました。コロナ禍の中、消費減少による新茶の売れ行きは低迷をしています。全国3位のお茶の生産地である三重県のさらなる販促拡大を目標に県下一丸となって販促強化を進めます。

三県交流会議（三重県・奈良県・和歌山県）多気郡大台町フォレストピアで開催（7/21）

交流は、三県議会の議員が一堂に会し、紀伊半島の振興及び発展に資するよう、各県が直面している共通課題について意見交換を行い、各県議会議員の連携・交流を図るもので、今年度は三県議会から21名の議員が出席しました。三県交流会議で、議論された内容は（1）ワーケーションの推進について（2）紀伊半島アンカールートの整備促進による国土強靭化及び地方創生の推進について（3）公共事業における木材の活用について上記議題について、三県の現状と課題、取組状況を報告し三県で連携できることを取り纏めました。三県議会が連携し国に要望していくことで合意しました。

令和3年度所属常任委員会の報告

環境生活農林水産常任委員会 副委員長

生活文化行政の推進、環境保全の推進、廃棄物対策、農林水産業の振興などについて、審査・調査します。

- 新型コロナウイルス感染症による影響と今後の対策について
- 脱炭素社会について
- 【今年度の委員会の重点調査項目】○豚熱及び獣害への対応について
- 三重県産材の利用促進について
- 漁場環境の変化への対応について

委員会県内調査（7/28・8/4）

△中央家畜保健衛生所（津市）

《豚熱発生にかかる検査態勢及び感染症防止等の取組みについて》

豚熱に感染した野生イノシシは、県下全域に確認され、11月8日現在で県内551例目の確認となりました。

県は野生イノシシに対する豚熱経口ワクチンの散布を実施している。

△ヴィソン多気（株）（多気町）

県産材を活用した建築物及び農産物マルシェの取組みについて

△（株）大栄工業三谷工場（伊賀市）

バイオガス発電による再生エネルギー活用の取組みについて食品廃棄物を堆肥化およびメタン化として再生利用に取り組んでいる。

△三重県水産研究所鈴鹿水産研究室（鈴鹿市）

水産業を取り巻く環境分析と地球温暖化等に対応する品種開発等の取組みについて

ノリの色落ちによる養殖収穫量の減少や、アサリをはじめとする沿岸水産資源の減少、海水の高温化や磯焼けによる海藻類による不漁など、漁業を取り巻く環境は厳しさを増している。伊勢湾の貧酸素の及ぼす影響について、貧酸素情報の発行をおこなっている。

△パラミタミュージアム（菰野町）

新型コロナウイルス感染拡大に伴う文化芸術施設への影響と取組みについて

来館客への新型コロナ対策や取組みについて意見交換、展示会の中止や規模の縮小が続いている。

△松葉ピッグファーム（いなべ市）

豚熱による感染防止対策及び消費拡大のための取組みについて

2年前の豚熱発生による飼育豚の殺処分（4,200頭）の実施と再建への道のりについて

県が販促キャンペーンを実施

